

子ども・子育て施策に一步前進!!

樋口区長は、令和5年第二回定例会において、我が会派の質問に答え、『物価高騰対策としての給食費無償化につきましては、施策全体のバランスを考慮した、総合的な子ども・子育て支援施策の一環として実施することとし、開始時期や手法を含めた具体案を、早急にお示しできるよう準備を進め、議会とも連携を図りながら取り組んでまいります。』とのご答弁を頂きました。

そして、第三回定例会において、給食費の具体的な金額を補正予算として計上し、不登校児童生徒への支援などを盛り込んだ子ども・子育て施策を議決しました。

1. 給食費の無料化

区立小中学校、中等教育学校前期課程の児童生徒 約4,500名が対象
本年11月から来年3月までの5か月分の給食費を区が全額負担する予算



2. 白鳥教室を利用する不登校児童生徒への支援 子育てひろば等による子育て支援の充実



その他、区内保育施設の園児が使用する、おむつや食事用エプロン等費用の無償化や、自転車用ヘルメットの購入に必要な補助等も議決しました。

千代田区監査委員に就任しました

千代田区に於ける監査委員は、公認会計士、弁護士、そして区議会議員の3名で構成され、それぞれの立場で職責を生かした監査を行っています。

千代田区には、5つの部、約50の事業課、そして8000ともいわれる様々な事業があり、その一つ一つを1年かけて監査します。

区民の皆様の大切な税金が正しく使われているか、効率よい仕事ができているかをしっかりとチェックして参ります。

桜井ただしのプロフィール



昭和28年8月7日生まれ しし座
麹町幼稚園、麹町小学校、麹町中学校を卒業
立教大学経済学部卒業(昭和51年)
立教大学体育会陸上競技部OB
(株)明治屋入社 営業畑一筋に23年間勤務
平成11年 千代田区議会議員初当選(現在7期目)
東京都後期高齢者広域連合議長(初代、第11代議長)
千代田区議会(第63代議長・第69代議長)
千代田区監査委員(平成元年~3年、令和5年~)
都市計画審議会委員

【議会関係現職】
環境まちづくり委員会
デジタルトランスフォーメーション特別委員会
【地域の関係現職】
麹町地区環境整備協議会 会長
麹町通り商店会 副会長
麹町野球会 顧問
麹町小学校同窓会 会長
麹町中学校同窓会 副幹事長
麹町消防少年団(第3代団長)
防災士(地域の防災リーダーとして)
ラジオ体操指導員

桜井ただしの区政レポート

令和5年第三回定例会

編集/発行 桜井ただし事務所 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 桜井ビル2階
<区政のご相談は> TEL:03-3261-7301 FAX:03-3261-0580 sakurai@arion.ocn.ne.jp



いつも一生懸命!
都心「千代田から新しい風」を

ご挨拶

みなさん、こんにちは。桜井ただしです。今年の夏は特に暑かったですね。皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

今年四月、皆様のご信任をいただき、再び区政に参画させていただくことになりました。

今まで培ってきた様々な経験や実績を活かして、更なる区民の皆様の福祉向上、区政発展のために頑張る所存です。

これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、今回、私は令和元年に引き続き、千代田区監査委員を務めることになりました。

これからも、区民の皆様の為、責任ある立場で、ご期待に応えられるよう全力で頑張つて参ります。

地域の防災リーダーを目指して『防災士』の資格を取得しました。

桜井ただし

www.tadashi-sakurai.com

桜井ただしに取り組む8つのライフワーク

1 高齢者の皆様 いつまでも安心して暮らせる 幸せ社会実現への取り組み	2 子育て世代への幅広い支援と 青少年の健全育成
3 毎日が生きがいの持てる 障がい者施策の拡充と 自立支援に向けた取り組み	4 景気回復と中小企業の振興、 商店会の活性化
5 0歳から高齢者まで 生き生きと健やかな 区民の健康づくり を支援	6 地域の賑わいと交流が 生まれる街づくりとバランスのとれた 良好な景観づくりの推進
7 災害に強い街づくりと 安全安心社会に向けた 様々な取り組み	8 いつまでも千代田区に住み 働くことができるよう 相続税・固定資産税の減税運動 への取り組み

一般質問



新型コロナウイルス感染症に対する区の対応について（質問文より抜粋しています）

問 令和元年12月、中国武漢市で第1例目となる感染者が報告されて以来、我が国においても、令和2年、最初の感染者が確認され、この間に8回の感染流行が起きました。

この間、千代田区・千代田保健所をはじめ、各医療機関に従事されてこられた皆様の努力に、心から感謝を申し上げます。

その後、国は、コロナ感染症の分類を、2類相当からインフルエンザと同様の5類に引き下げる旨の方針を発表、家庭や学校・職場・地域など、あらゆる場面で感染症対策が大きく変わることになりました。

中でも、マスクの着用や外国人観光客の入国規制緩和は、大きな流行につながるのではと心配されましたが、様々な地域社会において、どのような変化があったのでしょうか、医療の受診体制についてもお答えください。

感染状況を示すデータは、全数から定点把握に変わりました。

また、検査が有料になることで、検査をためらう人も予想され、益々実態がつかみづらくなるとおられます。今後どのようにして感染状況を把握されるのでしょうか。

次に、区民の皆様が安心していただける相談体制は取れるのでしょうか。

7日間とされていた療養期間も、患者の自己

判断となり、濃厚接触者の特定もなくなることで感染拡大が心配されます。

検査と治療が、全額公費から自己負担へ変わっていくとされています。急激に自己負担が増えることがないよう、費用負担の段階的な軽減が図られるよう強く望みます。

医療機関にとっても、コロナ患者に対する負担が大きく、体制を維持することができるかが心配されます。区としての見解を求めます。

また、高齢者などのハイリスク者をどのように守っていくのか、大切な課題です。貴い命を守るためしっかりとした対策を求めます。

このように、区民の感染に対する様々な心配に対して、どのように千代田区は対処されるのか、感染対策についてお答えください。

最後に、今後の感染症危機に備えるための予防計画について、進捗状況はどのようになっているのか、併せて、新型コロナウイルス感染症に対する区の対応について、決意をお聞かせください。

答（地域保健担当部長）

大きな変更点として、感染者の入院勧告や就業制限、感染者や濃厚接触者の行動制限がなくなり、学校行事や地域のお祭りなども行われ、街のにぎわいもコロナ禍以前に戻りつつあるように見受けられます。

医療においては、発熱外来に限られていた受診体制が、幅広い医療機関で対応する体制に移行されました。

感染状況の把握は、今までも季節性インフルエンザなどにおいて活用されており、流行状況を把握できるものと考えています。

相談体制については、東京都新型コロナ相談センターが設置されているほか、保健所でも随時ご相談に応じており、区民の安心につながるよう支援しています。

医療費は、高額な新型コロナ治療薬が全額公費負担となっているほか、入院医療費につ

いて一部公費支援が継続されており、桜井議員ご指摘の通り、急激に自己負担が増加することなく、段階的な移行となるよう配慮いたします。

また、高齢者などのハイリスク者を守るため、医師会や医療機関等と連携して、気を緩めることなく感染症対策に全力で取り組んでまいります。



千代田区と町会自治について

問 千代田区における町会組織は、日本の復興とともに発展し、その多くが60有余年の歴史を刻んでいます。区にとって、区民の要望や生活を把握する上からも、なくてはならない存在であり、行政が機能する上で中心的な役割となっています。

区内の町会組織を見てみると、多くの町会で高齢化が進み、町会員の数も少なくなっていて、町会運営が難しくなっていることが見受けられます。その上、長年の課題となっている、新たなマンションに住まれる皆さんとの交流も、なかなか進んでいないように思います。

そのような中、区内の再開発をめぐって、町会の中で訴訟が起きました。

町会の皆さんは、ボランティアで活動をされていますが、長い歴史の中で、町会の在り方を考えると大変残念であり、このようなことは、絶対に起きてほしくないと思います。

区として、このような事態が起きたことに対して、どのように理解をしているのでしょうか、区が求める町会のあるべき姿とは何でしょうか、お答えください。



答（地域振興部長）

町会は、清掃や防犯・防災といった安全・安心につながる活動、さらには祭礼などを通じて、住民相互の親睦の輪を深め、地域文化やその誇りを継承していく大切な場です。

ご指摘の通り、各町会の活動を支える町会議員は高齢化の上、担い手不足が実態であると認識しています。

町会のあるべき姿とは、地域の共同体として互いに助け合いながら、暮らしやすい地域社会のために活動されている団体で、日常の関係があるからこそ、地域の課題に対して、住民が共同して解決策を見いだしていくことができるものと認識をしています。

今回の町会内の訴訟については、執行機関としても大変残念に思っております。

いずれの町会においても、円滑な活動がなされることが第一です。

今後とも、各町会が維持発展することができるよう、引き続き区としての支援に取り組んでまいります。

